

報 告

2019年にコマロフ植物研究所・国立科学博物館・
東京都立大学牧野標本館で見出した神奈川県の地域植物相の
重要な記録となる標本

田中徳久

Norihisa Tanaka: Herbarium specimens kept at the Komarov Botanical Institute (LE), the National Museum of Nature and Science (TNS), and the Makino Herbarium of Tokyo Metropolitan University (MAK) in 2019 confirmed as important records of the regional flora of Kanagawa Prefecture, Japan

Abstract: Although the regional flora of Kanagawa Prefecture is one of the most thoroughly surveyed in Japan, the records of certain taxa can be found only in the literature, and there are no known specimens. For some species, only a few specimens have been collected. Accordingly, with the aim of establishing the existence of specimens of these taxa, I examined a range of herbarium specimens. In this report, I describe how specimens of the following nine taxa were confirmed in 2019: *Dioscorea nipponica* Makino, *Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim., *Saxifraga cortusifolia* Siebold & Zucc., *Primula japonica* A.Gray, *Vaccinium hirtum* Thunb., *Lithospermum murasaki* Siebold, *Valeriana fauriei* Briq., *Sium ninsi* L. and *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara. Additionally, it became evident that the identification of three specimens needed to be revised.

緒 言

神奈川県は、もっともよく植物相が把握されている都道府県の一つであり、これまでに『神奈川県植物目録』（松野編, 1933; 以下『神植目 33』と略記）、『神奈川県植物誌』（神奈川県博物館協会編, 1958; 以下『神植誌 58』と略記）、『神奈川植物目録』（宮代, 1958; 以下『宮代目録』と略記）、『神奈川県植物誌 1988』（神奈川県植物誌調査会編, 1988; 以下『神植誌 88』と略記）、『神奈川県植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編, 2001; 以下『神植誌 01』と略記）、『神奈川県植物誌 2018』（神奈川県植物誌調査会編, 2018; 以下『神植誌 18』と略記）の6編の県単位の植物目録・植物誌が刊行されている。このうち、神奈川県植物誌調査会による、実際に野外で採集された植物の証拠標本に基づく分布記録と、過去に採集され、標本庫に集積されている標本の分布記録に基づいた植物誌である『神植誌 88』、『神植誌 01』、『神植誌 18』は、特にその証左となるものである。これらの植物誌やそのために収集された標本情報は、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書』（神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995）、『神奈川県レッドデータ生物報告書 2006』（高桑ほか編 2006）所載の「維管束植物」（勝山ほか, 2006）、『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・

地球博物館編, 2022）所載の「維管束植物」（田中ほか, 2022）などのレッドデータ植物の選定などに活用されており、その際にも、別途、県外の標本庫に集積されている過去に採集された標本の調査も実施してきた。

しかし、これらの過程においても、既報に記録があるものの採集された標本が確認できずに、『神植誌 01』や『神植誌 18』において参考種としての掲載に留まったものや、神奈川県レッドデータ生物調査団編（1995）や勝山ほか（2006）、田中ほか（2022）の選定過程で消息不明種とされたものも多い。

著者は、これまで、神奈川県植物誌やレッドデータブックの改定に資するため、『神植誌 18』等で参考種とされたものや田中ほか（2022）等で消息不明種とされたものについて、各地の標本庫で標本調査を行い、その成果を報告してきた（田中・高橋, 2007; 田中・大西・勝山, 2015; 田中, 2016, 2021, 2025 ほか）。本報では、2019年に実施した標本調査の結果のうち、田中（2021）で漏れてしまったものについて報告した。なお、ここでは、標本記録がない種に加え、標本記録が少ない種として、県内での産地が数ヶ所に限られ、田中（2016）の採集年代の区分において、(A) 江戸時代（横浜開港以前）、(B) 横浜開港から明治初期に外国人により採集されたもの、既知の産地と異なるものなどを含めた。

材料と方法

標本調査は、これまで神奈川県内で採集された標本が知られていなかった種の標本やこれまで標本記録がなかった産地で採集された標本など、神奈川県内の地域植物相の記録上、重要だと考えられる標本を各地の標本庫で探索した。なお、下記の標本庫は本報で報告した標本の収蔵館のみで、実際には他の標本庫でも探索している。

確認された植物標本は、デジタル一眼レフカメラ (Nikon D800E・使用レンズ: AF-S NIKKOR 28mm f/1.8G) を使用し、内蔵フラッシュを用いた手持ち撮影され、得られた標本画像から、ラベルに記されている標本の属性 (植物の和名、学名、採集地、採集年月日、採集者、採集者の標本番号、標本庫の標本番号など) をデジタルデータ化した。この標本の属性は、標本画像とともに、神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵資料管理システムの維管束植物画像 (KPM-NX) に登録した。

以下に報告する植物標本の記述は、『神植誌 18』の和名、学名を見出しとし、科の配列は『神植誌 18』に従い、種の配列は、種の学名のアルファベット順とした。記述中の標本の引用では、ラベルに記載されている採集地、採集年月日、採集者と採集者の標本番号、標本庫の機関略号と標本番号 (標本番号が付されていない未登録標本がある) と神奈川県立生命の星・地球博物館の維管束植物画像の資料番号を示した。その記述において、『神植誌 18』の引用文中の引用文献部分は、本稿の掲載誌の引用様式に修正した部分もある。また、標本庫の機関略号は、Index Herbariorum (the Index Herbariorum database, <http://sweetgum.nybg.org/science/ih/>) に登録されているもので、GH: ハーバード大学グレイハーバリウム (アメリカ合衆国: ワシントン)、KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館、L: ナチュラリス生物多様性センター (オランダ: ライデン)、LE: コマロフ植物研究所 (ロシア: サンクト・ペテルブルク)、MAK: 東京都立大学牧野標本館、P: フランス王立自然史博物館 (フランス: パリ)、TI: 東京大学植物標本庫、TNS: 国立科学博物館植物研究部標本室を示すが、YCB: 横浜市こども植物園、OIS: 大磯町郷土資料館は、『神植誌 18』等で示された略号であり、生命の星・地球博物館の標本番号に付される NA は維管束植物標本を、NX は維管束植物画像を示す。

結果と考察

田中 (2016) では、報告する標本を、採集年代別に、(A) 江戸時代 (横浜開港以前)、(B) 横浜開港から明治初期、(C) 明治初期から昭和前期に分けて報告したが、ここで報告するのは、(B) および (C) とその後の時期に位置づけられるものである。

今回報告する標本は、新たに確認されたヤマノイモ科 Dioscoreaceae のウチワドコロ *Dioscorea nipponica* Makino、クサスギカズラ科 Asparagaceae のヒメイズ

イ *Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim.、ユキノシタ科 Saxifragaceae のジンジソウ *Saxifraga cortusifolia* Siebold & Zucc.、サクラソウ科 Primulaceae のクリンソウ *Primula japonica* A.Gray、ツツジ科 Ericaceae のコウスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb.、ムラサキ科 Boraginaceae のムラサキ *Lithospermum murasaki* Siebold、スイカズラ科 Caprifoliaceae のカノコソウ *Valeriana fauriei* Briq.、セリ科 Apiaceae (Umbelliferae) のムカゴニンジン *Sium ninsi* L.、ヌマゼリ *S. suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara の計 8 科 9 種と、標本が再同定され、過去の記録を修正すべき証左となる可能性のあるカタバミ科 Oxalidaceae のコミヤマカタバミ *Oxalis acetosella* L. およびオオヤマカタバミ *O. obtriangulata* Maxim. とされていたカントウミヤマカタバミ *O. griffithii* Edgew. & Hook.f. var. *kantoensis* (Terao) T.Shimizu の標本と、田中 (2016) がタデ科 Polygonaceae のクリンユキフデ *Bistorta suffulta* (Maxim.) H.Gross として報告したハルトラノオ *B. tenuicaulis* (Bisset & S.Moore) Nakai の標本である。

1) ウチワドコロ *Dioscorea nipponica* Makino

愛甲郡愛甲町で採集された標本 (愛甲郡愛甲町志田峠 1964.5.10 小林純子 -26020 MAK252503 KPM-NX0002046; 図 1) を確認した。本標本は、採集者の小林純子により同定され、Y.Takeuchi による「ウチワドコロ♀」の同定票が付されている。『神植目 33』に横浜、大山、箱根、湯河原、玄倉、津久井 (石老山) の記録があり、『神植誌 58』、『宮代目録』もこの記述を引用しているようである。また、林ほか (1961) は大山、世附、玄倉をあげている。しかし、関口 (2018) によると、「現在までこれらの地域を含め、県内ではまったく確認されていない」とされている。この状況を鑑みると、ここで報告した標本について、さらに慎重に同定を確認する必要があるが、標本の存在を示し、今後に資することとした。

2) ヒメイズイ *Polygonatum humile* Fisch. ex Maxim.

横須賀で採集された標本 (Yokoska 1866–1871 Savatier-1257 LE 未登録 KPM-NX0002047; 図 2) を確認した。Franch & Savatier (1873–1875) は、この標本を引用し、横須賀を産地としてあげている。田中 (2016) は横浜で採集された標本 (横浜 1923.5.15 久内清孝 TI) を見出したことを報告している。また、近年、渡辺 (2025) が横浜市金沢区の埋立地に造成された団地内の緑地で記録しているが、これは移入の可能性はある。木場 (2018) や神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編 (2022) では絶滅種とされている。

3) ジンジソウ *Saxifraga cortusifolia* Siebold & Zucc.

西丹沢で採集された標本 (神奈川県丹沢山西丹沢 1949.10.16. MAK440745 KPM-NX0002048; 図 3) を確認した。『神植目 33』、『神植誌 58』、『宮代目録』等に記載はなかったが、深町 (2017) により現存が報告され、深



図 1. 愛甲郡愛甲町で採集されたウチワドコロ *Dioscorea nipponica* の標本 (MAK252503; KPM-NX0002046) .



図 2. 横須賀で採集されたヒメイズイ *Polygonatum humile* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002047)



図 3. 西丹沢で採集されたジンジソウ *Saxifraga cortusifolia* の標本 (MAK440745; KPM-NX0002048) .



図 4. 宮代周輔氏採集のジンジソウ *Saxifraga cortusifolia* の標本 (YCB104225; KPM-NX0002048) .

町 (2018) は横浜市こども植物園所蔵の宮代周輔氏採集の標本 (相模 1958.10.8 宮代周輔 YCB104225) の存在を報告している。この標本についても、参考までに図 4 (KPM-NX0002048) に示した。

4) クリンソウ *Primula japonica* A. Gray

箱根で採集された標本 (Hakone 1866–1874 Savatier-779 LE 未登録 KPM-NX0002050; 図 5) を確認した。Franch & Savatier (1873–1875) は、この標本を引用し、箱根を産地としてあげている。井上・中村・高橋 (1991) により箱根須雲川の自生が報告された。篠原 (2018) も箱根須雲川で採集された標本 (箱根町須雲川 1997.8.20 勝山輝男 KPM-NA0104548) を報告している。

5) コウスノキ *Vaccinium hirtum* Thunb.

箱根で採集された標本 (神奈川県箱根仙石原長尾峠 1942.5.22 松田麗子 共立女子薬学専門学校 -112737 TNS683852 KPM-NX0002051; 図 6) を確認した。基準産地は箱根とされており (『神植誌 18』)、C. P. Thunberg が採集した標本 (No.9229) がコウスノキであることは小泉 (1941) が報告し、勝山ほか (2013) により再確認されているが、勝山 (2013) 同様、佐々木 (2018b) は、「Thunberg (1784) には箱根のほか、京都～江戸間の記述もあり、Thunberg の標本が箱根で採集されたかどうかは不明である」としている。五百川 (2017) は、「Thunberg が箱根で採集したものから記載されたが、この種類は箱根には産しない」としており、本標本の同定には、さらに検討が必要である。『神植目 33』、『神植誌 58』、『宮代目録』に塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳の記録があるが、標本は確認されておらず、『神植誌 88』以後の調査でも採集されていない。なお、ウスノキ var. *pubescens* (Koidz.) T.Yamaz. は葉が大きく、日本海側に分布する。

6) ムラサキ *Lithospermum murasaki* Siebold

横浜神奈川 (神奈川県あるいは神奈川県周辺を指すものと考えられる) で採集された標本 (Yokohama, Kanagawa 30.VII/11.VIII 1862 Maximowicz LE 未登録 KPM-NX0002052; 図 7 ほか 1 点)、大山で採集された標本 (Sagami Mt.Oyama 5.VI.1908 LE 未登録 KPM-NX0002053; 図 8)、藤沢で採集された標本 (Mutsuai, Fujisawa City, Kanagawa Pref. Jun.24.1931 Tomitaro MAKINO MAK38618 LE 未登録 KPM-NX0002054; 図 9) を確認した。佐々木 (2018a) は、「県内では、かつては丹沢や箱根の草原に多く点在し…山麓や丘陵地にもあった…」としており、ここで報告した神奈川と藤沢で採集された標本は、丘陵地 (低地) に生育していた証拠となる標本である。

7) カノコソウ *Valeriana fauriei* Briq.

横須賀で採集された標本 (Yokoska 1866–1874 Savatier-579 LE 未登録 KPM-NX0002056; 図 10) を確



図 5. 箱根で採集されたクリンソウ *Primula japonica* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002050) .

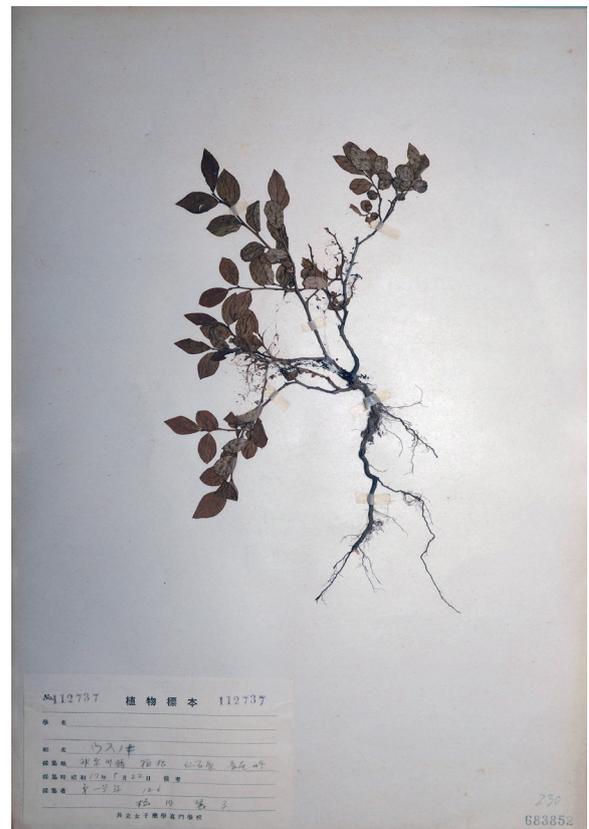


図 6. 箱根で採集されたコウスノキ *Vaccinium hirtum* の標本 (TNS683852; KPM-NX0002051) .



図7. 横浜神奈川で採集されたムラサキ *Lithospermum murasaki* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002052) .



図8. 大山大山で採集されたムラサキ *Lithospermum murasaki* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002053) .



図9. 藤沢で採集されたムラサキ *Lithospermum Murasaki* の標本 (MAK38618 LE 未登録; KPM-NX0002054) .

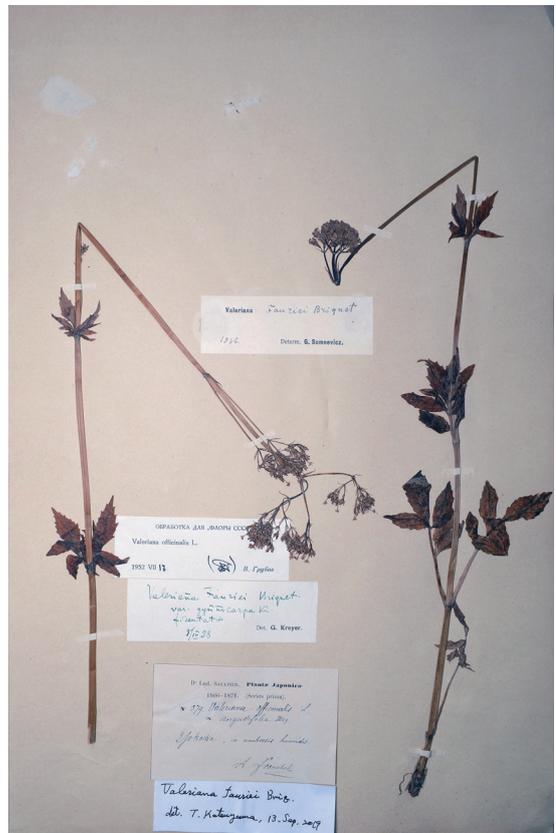


図10. 横須賀で採集されたカノコソウ *Valeriana fauriei* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002056) .

認した。この標本は、Franch & Savatier (1873-1875) に *Valeriana officinalis* L. α . *angustifolia* Miq. として引用されている標本であるが、カノコソウと再同定された (13.Sep.2019 勝山輝男同定)。また、採集地が Yedo & Yokohama と記されたシーボルトにより採集された標本 (Yedo & Yokohama 1861 Siebold LE 未登録 KPM-NX0002057; 図 11) も確認した。中島 (2018) には、「県内では出口 (1968) に元石川 (横浜市青葉区) で撮影された写真が掲載されており、松浦 (1958) に箱根畑宿の記録があるが、標本は未確認」とあり、ここで報告した標本は、改めて県内の分布の証拠となるものである。

8) ムカゴニンジン *Sium ninsi* L.

横浜で採集された標本 (Yokohama. 13/25. IX 1862 Maximowics LE 未登録 KPM-NX0002058; 図 12 ほか 2 点) を確認した。田中 (2024) が報告しているナチュラリス生物多様性センター (L) で見出された標本 (Yokohama 1862 Maximowicz L2588409) は、ここで報告した標本の重複標本に類するものである。『神植誌 58』は横浜 (保土ヶ谷～上白根、二俣川、花見台) を記録し、川崎市多摩区登戸 (1951.8.26 大場達之 KPM-NA0023191) と横浜市旭区桐ヶ作大池 (1952.9.14 出口長男 KPM-NA0079528) の標本が残る。『神植誌 88』のための調査が開始された 1979 年以降では、箱根芦ノ湖畔で採集された (足柄下郡箱根町芦ノ湖西岸白浜 1997.9.1 勝山輝男 KPM-NA0104661)。

9) ヌマゼリ (サワゼリ) *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

相模原市淵野辺で採集された標本 (Fuchinobe, Kanagawa-ken 24.VIII.1950 Satoshi Inaizumi TNS01016431 KPM-NX0002061; 図 13) を確認した。佐々木 (2018b) は、「県内では『神植目 33』、『宮代目録』が多摩区登戸を産地として記録するが、標本は確認されていなかった」と記し、丹沢山で採集された標本 (相模国愛甲郡丹沢山御料林 1915.8.10 鈴木茂一 OIS) を報告している。ここで報告した標本は、登戸とは異なる、他の丘陵地 (平地) に分布していた証拠となる標本である。

10) 同定変更された標本

① コミヤマカタバミ *Oxalis acetosella* L.

コミヤマカタバミとされていた箱根で採集された標本 (Hakone 6/18.X.1862 Maximowics LE 未登録 KPM-NX0002062; 図 14) はカントウミヤマカタバミの *griffithii* Edgew. & Hook.f. var. *kantoensis* (Terao) T.Shimizu と再同定された (13.Sep.2019 勝山輝男同定)。

コミヤマカタバミは、『神植目 33』や『神植誌 58』、『宮代目録』では、鎌倉を産地としてあげているが、本種は、亜高山帯の針葉樹林中に生育する植物であり、鎌倉に産することは考えにくい。これらの記録は、『神植目 33』の記述を引用したものだと考えられるが、『神植目 33』



図 11. Yedo & Yokohama で採集されたカノコソウ *Valeriana fauriei* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002057) .

の根拠は不明である。Thunberg (1784 Flora Japonica) は箱根から記録しているが、この標本はカントウミヤマカタバミであり (勝山ほか 2013)。勝山 (2018) は、宮代コレクション植物標本目録作成編集委員会編 (2001) や田中・高橋 (2007) が報告した鶴見 (生見尾) 産コミヤマカタバミの標本 (YCB046938) について、「この標本は貧弱なものであるが、根茎の状態からカントウミヤマカタバミの可能性が高い」としている。

② オオヤマカタバミ *O. obtriangulata* Maxim.

オオヤマカタバミの同定票が付された大山で採集された標本 (Oyama 1877 20.IV.1877 Bisset-1024 LE 未登録 KPM-NX0002063; 図 15) はカントウミヤマカタバミと再同定された (13.Sep.2019 勝山輝男同定)。

オオヤマカタバミは、『神植目 33』や『神植誌 58』、『宮代目録』では、箱根を産地としてあげているが、コミヤマカタバミ同様、この記述は、『神植目 33』の記述を引用したものだと考えられる。Franch & Savatier (1877-1879) は、Savatier が採集した標本 (n.3374) を引用し、Hakone を産地としてあげており、この記録を引用した可能性もある。ただし、この標本は未確認である。勝山 (2018) は、林ほか (1961) の大山、塔ヶ岳の記録と合わせ、標本が確認されていないため、「誤認の可能性が高い」としている。



図 12. 横浜で採集されたムカゴニンジン *Sium ninsi* の標本 (LE 未登録; KPM-NX0002058) .



図 13. 相模原市淵野辺で採集されたヌマゼリ *Sium suave* var. *nipponicum* の標本 (TNS01016431; KPM-NX0002061) .

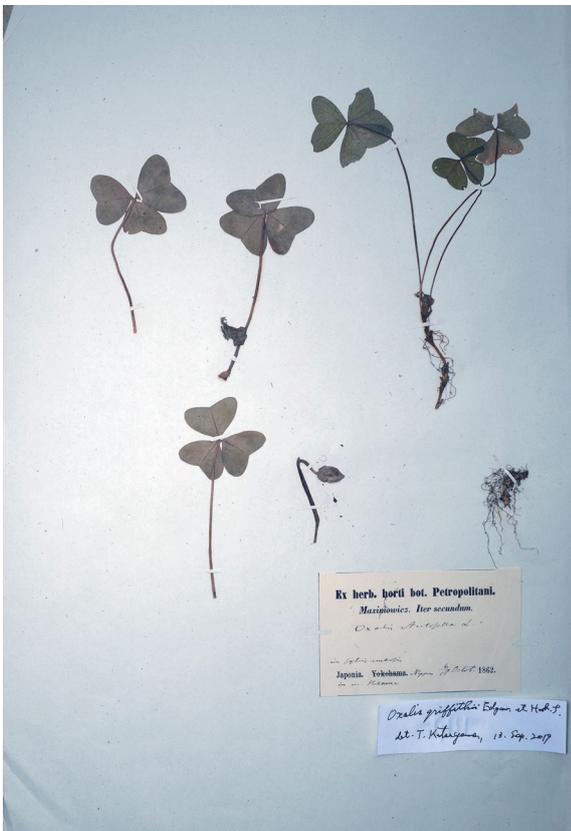


図 14. カントウミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* var. *kantoensis* に同定変更されたコマヤマカタバミ *O. acetosella* とされていた標本 (LE 未登録; KPM-NX0002062) .



図 15. カントウミヤマカタバミ *Oxalis griffithii* var. *kantoensis* に同定変更されたオオヤマカタバミ *O. obtriangulata* とされていた標本 (LE 未登録; KPM-NX0002063) .

③ クリノキフデ *Bistorta suffulta* (Maxim.) H. Gross

田中 (2016) が報告したクリノキフデの基礎異名 *Polygonum suffultum* Maxim. の副基準標本と考えられる標本 (Hakone 1862 Maximowicz GH00057159) は、ハルトラノオ *B. tenuicaulis* (Bisset & S. Moore) Nakai と再同定された。LE において神奈川県産の基準標本に関する調査を実施した際、この標本の重複標本と推察される箱根で採集された標本を確認し、再同定した結果、上記の標本も改めてハルトラノオであると再同定した。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり標本調査でお世話になったコマロフ植物研究所のアリサ グラボスカヤ - ボロディナ、東京都立大学 (首都大学東京) 牧野標本館教授 (当時) の村上哲明、国立科学博物館植物研究部研究主幹の海老原 淳、コマロフ植物研究所の標本調査に同行、協力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 (当時) の勝山輝男、同学芸員の太西 亘、三重大学特任講師の福田知子の各氏に感謝の意を表す。また、有益なご助言を賜った査読者にお礼申し上げる。

本報告は、JSPS 科研費 17K012183・23K00966 の助成を受けた研究成果を含む。

引用文献

- 出口長男, 1968. 横浜植物誌. 6 + 256 pp., 44 pls. 秀英出版, 横浜.
- Franch, A. & L. Savatier, 1873–1875. Enumeratio plantarum in japonia sponte crescentium, accedit determinatio herbarum in libris japonicis So-Mokou Zoussets xylographice deloneatarum. Vol. 1. 15 + 485 pp. F. Savy, Paris.
- Franch, A. & L. Savatier, 1877–1879. Enumeratio plantarum in Japonia sponte crescentium: hucusque rite cognitarum, adjectis descriptionibus specierum pro regione novarum, quibus accedit determinatio herbarum: in libris japonicis So Mokou Zoussetz, Xylographice delineatarum. Vol. 2. 789 + 3 pp. F. Savy, Paris.
- 深町篤子, 2017. ジンジソウを世附で確認. *Flora Kanagawa*, (83): 991–992.
- 深町篤子, 2018. ユキノシタ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018(上). pp. 707–718. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 林 弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961. 丹沢山塊の植物調査報告. 林業試験場研究報告, (133): 1–128, pls. 1–16.
- 井上香世子・中村和義・高橋 勉, 1991. 須雲川の植物相. 東京電力・松田工務店・東電設計編, 箱根線 No.391 ~ No.447 地域環境事前調査委託報告書. pp. 41–125. 東京電力・松田工務店・東電設計, 東京.
- 五百川 裕, 2017. スノキ属. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編, 改訂新版 日本の野生植物 4. pp. 254–262. 平凡社, 東京.
- 神奈川県博物館協会編, 1958. 神奈川県植物誌. 4 + 257 pp., 8 pls. 神奈川県博物館協会, 横浜.
- 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 2022. 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編. 436 pp., 9 pls. 神奈川県, 横浜.
- 神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), No. 7. 8 pls. + 257 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

- 神奈川県植物誌調査会編, 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442 pp. 神奈川県立博物館, 横浜.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 勝山輝男, 2018. カタバミ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018(下). pp. 936–941. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006, pp. 37–130. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 勝山輝男・田中徳久・太西 亘, 2013. ツンベリーの日本植物誌に記録された箱根産植物. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (42): 35–62.
- 小泉源一, 1941. *Vaccinium hirtum* Thunb. 植物分類地理, 10: 220.
- 木場英久, 2018. クサスギカズラ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (上). pp.351–365. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 松野重太郎編, 1933. 神奈川県植物目録. 5 + 111 + 23pp., 10pls. 神奈川県博物館調査会, 横浜.
- 松浦茂寿, 1958. 箱根植物目録. 4 + 1 + 2 + 90 + 2 + 25 pp. 箱根博物館, 箱根.
- 宮代周輔, 1958. 神奈川県植物目録. 4 + 112 + 41 pp. 自費出版.
- 宮代コレクション植物標本目録作成編集委員会編, 2001. 宮代コレクション植物標本目録. 203 pp., 4pls. 横浜市緑政局, 横浜.
- 中島 稔, 2018. スイカズラ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (下). pp. 1653–1663. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 佐々木あや子, 2018a. ムラサキ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (下). pp. 1316–1329. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 佐々木シゲ子, 2018b. ツツジ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (下). pp. 1259–1275, セリ科. 同書, pp.1676–1709. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 関口克己, 2018. ヤマノイモ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (上). pp. 264–268. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 篠原康之, 2018. サクラソウ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (下). pp. 1238–1247. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 田中徳久, 2016. 神奈川県内の地域植物相の重要な記録となる標本. 神奈川県自然誌資料, (37): 1–10.
- 田中徳久, 2021. 2018–2020 年に見出した神奈川県内の地域植物相の重要な記録となる標本. 神奈川県自然誌資料, (42): 143–147.
- 田中徳久, 2024. ナチュラリス生物多様性センターで見出したマキシモヴィッチ採集の神奈川県内の植物相において重要な記録となる植物標本 (1). 横浜植物会年報, (53): 38–40.
- 田中徳久・勝山輝男・秋山幸也・太西 亘・田村 淳・山本 薫・石田祐子, 2022. 維管束植物. 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編, pp. 44–326. 神奈川県, 横浜.
- 田中徳久・太西 亘・勝山輝男, 2015. サヴァアチエが採集した植物標本に残る神奈川県内の絶滅植物. 神奈川県自然誌資料, (36): 11–20.
- 田中徳久・高橋秀男, 2007. 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物. 神奈川県自然誌資料, (28): 29–38.
- Thunberg, C. P., 1784. *Flora Japonica*. 418 pp. Lipsiae.
- 渡辺重彦, 2025. 横浜市金沢区でヒメイズイを確認. 横浜植物会年報, (54): 21–22.

田中徳久：神奈川県立生命の星・地球博物館

(受領 2025 年 10 月 31 日；受理 2026 年 1 月 17 日)